



Pre・「医療専攻」たより

新潟県立小出高等学校 1学年 Vol.1 令和元年12月16日

今月、12月3日（火）に医療専攻を希望する1年生22名を対象に医療講演会を行いました。今回の講演会では、現在小出病院にご勤務の看護師、矢島花梨様と作業療法士、高山竜輔様、社会福祉士、橘洋平様、桜井春香様にお話をいただきました。講演の中で、その職種を志望したきっかけや、やりがい、仕事内容など実際に働いているからこそ聞ける貴重なお話を聞くことができました。

看護師 矢島 花梨 様

看護師を志望した理由について

もともとは介護の仕事をしていましたが、仕事を続ける中で「看護」の仕事に憧れを持つようになった。そこで決心して看護師になりたいと思い、挑戦しようと思ったのがきっかけです。

看護師としての困難について

看護師は人の健康と命に直接関わるので、責任が重大。自分の仕事への自覚が必要。日々の仕事の中では「確認」が重要になる。確認を怠ると危険につながるのので気を付けている。看護の道に終わりはないため、学び続ける姿勢が必要となる。

やりがいについて

患者さんやその家族からの「ありがとう」の言葉は何よりうれしい。また、患者さんが徐々に元気になっていく姿を見るのが嬉しい。こんなに人に寄り添える仕事は看護師だけだと誇りを持っている。



作業療法士 高山 竜輔 様

作業療法士（OT）について

心と体のリハビリをする専門家になる。作業というと、手工芸のような細かい手作業などを思い浮かべる方も多いと思うが、ここでの作業とは日常生活に関わるすべての諸活動のことを指している。食事や着替えなどのセルフケア、家事や仕事、余暇活動なども「作業」と位置づけられている。怪我や病気など、何らかの理由で作業（＝活動）がうまくいかなかった時、作業療法士は様々な方法で対象者をサポートしていく。患者さんが自分らしく生き生きとした生活を送ることができるように、様々な作業を通して心と体を支えていく職業と言える。



社会福祉士 桜井 春香 様 橘 洋平 様

社会福祉士を目指そうとしたきっかけ

もともとは学校の先生になりたいと思っていた。自分が高校生の修学旅行で外出している時に祖母が倒れてしまい、体が不自由になった。その際に社会福祉士の方に親身になって助けてもらったことが最初のきっかけである。（桜井さん）



社会福祉士について

社会福祉士として福祉の職場で働く人びとの多くは、社会福祉協議会や社会福祉施設、病院、地域包括支援センター等でソーシャルワーク実践に取り組んでる。具体的には、在宅・施設で生活している方々の相談に応じ、必要な助言や利用可能な制度・サービスの紹介をはじめ、サービスの利用調整や関係者間の連絡など、相談者を支え、その抱える課題を解決するためにさまざまな仕事をしています。人々の「幸せ」や「豊かさ」を追求する社会福祉士は、援助の対象となる人の人生に深く関わっていく仕事と言える。その分、責任も重大となるが、困難を乗り越え、明るい将来の兆しが見えたときの喜びは大変大きいものとなる。



テスト最終日の午後ということで疲れが出やすい時間帯でしたが、講師の方々の具体的で丁寧な説明に生徒たちはメモを取りながら熱心に話を聞いていました。



生徒の感想より

- ・今日のお話を聞いて、1人の患者に対してのチーム医療が大事だと改めて気づきました。自分の仕事だけでなく他の職種のことを理解することが重要だと思いました。
- ・医療ソーシャルワーカーは相談にのるだけではなく、一緒に考えていると聞いて、これは日常生活の中で自分ができることだと思いました。日頃から思いやりの心を持って生活しようと思いました。そして、今のうちに自宅で集中して勉強する習慣を身に付けたいと思います。
- ・私は将来医療従事者になりたいと考えていますが、今日の講演を聞いて様々な職種があることを知ったので、どの職種に就きたいかを急がずに、じっくり考えてみようと思います。
- ・今日の講師の方の表情が輝いて見えました。日々の仕事に誇りとやりがいを感じているのだろうと思いました。自分も目の前の学校生活を充実させながら、医療の道にアンテナを張って意識を高めていきたいと思っています。